

IPCC 再生可能エネルギー源の特別報告書に関するスコーピング会合
Programme of the IPCC Scoping Meeting on Renewable Energy Sources
リューベック・ドイツ、2008年1月20-25日

および

EU Sustainable Energy Week '08 (EU SEW 2008)

ブリュッセル・ベルギー、2008年1月28日

出張報告

国立環境研究所 地球環境研究センター温暖化対策評価研究室 藤野純一

. IPCC 再生可能エネルギー源の特別報告書に関するスコーピング会合

会合日程：2008年1月20日(日)～25日(金)

場 所：Radison SAS Senator ホテル他(リューベック・ドイツ、)

会合の目的：IPCCでは第4次評価報告書の作成が完成し、次に、原子力、省エネ・効率改善と再生可能エネルギーに関して特別報告書を作ろうという動きがある。本年4月にブダペストでIPCC総会が行われ、その場で作成か否かの審議が行われることになっている。このため本会合はどのような特別報告書を作成したいのか目的や目次をまとめたスコーピングペーパーを作成することを目的に開催された。

会合出席者：全45カ国、120名前後

米国の13名、日本12名、ドイツ11名、ブラジル8名等。

日本からの出席者：平石(IGES)、神本、大和田野、武内、赤井、近藤、美濃輪、西尾(以上、産総研)、戒能(阪大・経済産業研)、金子(西日本技術開発)、本郷(JBIC)、藤野(国環研)

途上国からの出席は40名。中国や産油国からの出席は0、インド3名。

参加者の構成は大雑把に、昔から1つまたは2つの再生可能エネルギーをやってきた人(このグループが主)、複数の再生可能エネルギーを組み合わせさせてエネルギーシステムの中での役割を分析する人(当職はこの範疇)、再生可能エネルギー導入策について政策や投資を検討している人、の3種類であった。IPCC会合自体に初めて参加する人も多く(当職も)、Olav議長が何度も今回の目的を説明していた。

会合概要：第1日目(1月20日)：風力発電、太陽光発電のサイトの視察。

第2日目(1月21日)：各章について発表および質疑応答。

第3日目(1月22日): 報告書構成についての議論。(11章に決まる)

第4日目(1月23日): 各章の個別議論。(記述内容、キーメッセージなどについて議論)

第5日目(1月24日)

~第6日目(1月25日): 各章の章立て、キーメッセージ等の結果を提示し、第5日目の夕方以降、コアライティングチーム(CWT)が作業を行った。

CWTは22名で構成され、日本からは大和田野氏が選出された。

CWTは、本会合での議論の集約とIPCC総会へ提案するスコーピングペーパーの作成を行った。

会合の結果: 今回作成されたスコーピングペーパーが4月のIPCC総会に提出され、いよいよ本特別報告書が作成されるか否かが審議される。

- ・ 章立ては以下の通りとされた。

1章	導入	5頁
2章	バイオマス	15頁
3章	太陽エネルギー	10頁
4章	地熱エネルギー	5頁
5章	水力エネルギー	5頁
6章	海洋エネルギー	5頁
7章	風力エネルギー	5頁
8章	現状及び将来エネルギーシステムの再生可能エネルギーの統合	15頁
9章	持続可能な開発における再生可能エネルギー	10頁
10章	緩和ポテンシャルとコスト	10頁
11章	政策、資金と手段	15頁

- ・ 今後のスケジュール

作成が承認されると仮定して考えられているスケジュールは下記の通り。

2008.4	IPCC28回総会(ブダペスト)で報告書作成の承認
2008.4-5	各国への執筆者推薦依頼開始
2008.9	執筆者の選定(IPCCビューローメンバーによる)
2008.冬	第1回LA会合(ブラジルで開催)
2009.春	一次ドラフト専門家レビュー
2009.夏	第2回LA会合(開催地未定)
2009.冬	二次ドラフト政府・専門家レビュー
2010.春	第3回LA会合(開催地未定)
2010.夏	最終ドラフト政府レビュー
2010.10	IPCC WG3 総会において受理

その他

- ・Pachauri 議長の講演が最終日に行われた。当初の予定より遅い登場であったが、それでも Pachauri 議長が来場したことの意味は大きい。なお、WG3 共同議長の Ogun は全日程参加していた。
- ・今回、中国、ロシア、中東などの重要な国からの参加者がなかったことが、後々、響いてくるのではないかと懸念する声をしばしば参加者から聞いた。

・ EU Sustainable Energy Week '08 (EU SEW 2008)

会合日程： 2008 年 1 月 28 日（月）

場 所： Charlemagne Building, Brussels, Belgium（ブリュッセル・ベルギー）

概 要： EU Sustainable Energy Week は、欧州の持続可能エネルギーに関する主要なトピックスについて幅広くとりあげる EU 主催の会議であり、今回は 1 月 28～2 月 1 日までの 1 週間開催された。当職は、最初の 2 日間開かれた SET (Strategic Energy Technology) Plan のうち、その 1 日目の午後のセッションにおいて、講演依頼を受けたため、スピーカーとして出席した。

午前のセッションでは EC (European Commission) のエネルギー、環境、科学技術の 3 閣僚が参加し、IEA からは経済産業省から出向している田中事務局長がスピーチを行った。2008 年 1 月 24 日に、EU 加盟国 27 カ国全体で 2020 年までに最終エネルギー需要のうち 20% を再生可能エネルギーで賄う際に（この数値自体は 2007 年に決定済み）それぞれの国がどれだけの再生可能エネルギー導入量を受け持つかの提案が EC から行われたため、力が入った会合になった。午後のセッションでは、EU 議会、スターンレビューチームのメンバーなど温暖化に関する重要なステークホルダーがスピーチを行い、当職もその中の一人として環境省および国立環境研究所が取り組んでいる、Japan-UK Joint Research Project 'Low Carbon Society (LCS)' についての紹介を行った。

所 感：いくつかの会場に分かれてイベントが行われており、EU 全体の再生可能エネルギーに対する思い入れが感じられた。当職の会場は EC のすぐ隣にあり、特に午前中は約 500 名入場可能な会場がほぼ一杯になった。周りに併設された展示コーナーでは、再生可能エネルギー開発・普及に関するビジネスや行政のグループの説明会が行われ、各所で議論が行われていた。EU 全体で再生可能エネルギーのトレンドを作り出そうという意気込みが感じられた。

以 上